

ネジバナの秋

振花のまことねぢれてゐたるかな——草間時彦

私のはじめてネジバナ(振花)の存在に気付いたのは子供のころ、京都市にある小学校校舎の裏でした。東西にのびた校舎の北側は蛸薬師通りに沿って数メートルの幅で細長い空き地になっていましたが、校舎と塀に挟まれてうす暗いこともあってか人気がありませんでした。しかし市街地では草地という存在自体が珍しかったため、私は体育倉庫の裏の狭い空き地——きめ細かく光沢のある土団子をつくるのに欠かせない砂を産出する——同様に気に入っていました。

当時から小さい生き物には目がなかったため、一つひとつが数ミリメートルの小さな花が美しく配列されている姿は一目で気に入りました。一株掘り採って、数センチメートルの素焼きの鉢に植え込み楽しんだことをよく覚えています。野外では大抵たくさんの株が群落になっており、よく見ると螺旋を描く花序は右回りや左回り、まっすぐなど様々な変化があり、白花や緑花品もあって見飽きません。

またルーペで花を拡大してみるとラン科植物のパーツがミニチュアの様に精緻にしつらえてあり、しかも意外なことにシンビジウムやカトレアといった洋ランのようなバタ臭い顔をしていることに驚かされます。

ネジバナは国内の野生ランのなかで唯一の雑草リスト入りを果たすほど庶民的なランで、芝生や畑のへりなどでもよく見られます。「庭で草刈ってたら高山モノが生えてたんだわ」と博物館に問合せがくることありますが、大抵はネジバナです。どれだけ庶民的といってもさすがは野生ラン、他の雑草とは一線を画す気品を持っているということでしょう。

ネジバナの学名は *Spiranthes sinensis* var. *amoena*、属名 *Spiranthes* は螺旋状の花という意味のラテン語です。奄美以南に分布するナンゴクネジバナ *S. s.* var. *sinensis* の変種で、花茎や萼片に毛があることで区別しています。毛の有無でわかる意義はともかく変異の幅は大きく、山草愛好家を楽しまれています。先に挙げた花色変わりや葉の斑入り、屋久島ではツボスミレの矮小化したコケスミレ同様に、ヤクシマモジズリと呼ばれている矮小型も見られます。

なかでも変わっているのは秋咲き品種アキザキネジバナ *S. s.* var. *a. f. autumnus* です。斜里のネジバナは通常8月上旬に咲き始めますが、2002年に9月28日と遅い時期に咲いた株を見たことがあります。あれはたまたま遅かったのか、いつも遅いのか…身近な植物にもまだ謎はたくさんあります。今年は久しぶりにネジバナを探索に行こうと思っています。(内田暁友)



ネジバナ(2016年8月25日、斜里)

発行 知床博物館協力会 2016.8.26
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257
<http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>